

令和6年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 18		学校名	県立伊奈特別支援学校								学校長名	奥岡 智博					
教頭名	安 伸夫			教頭名	冬木 芳明			教頭名	高野 康子			事務（室）長名	近藤 大介					
教職員数	教 諭	128	養 護 教 諭	2	常 勤 講 師	29	非常勤 講 師	8	実 習 助 手	2	寄 宿 舎 指 導 員	0	事 務 職 員	3	技 術 職 員 等	18	計	193
幼児・ 児童・ 生徒数	部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	小学部	28	11	13	5	22	5	26	8	22	9	11	6	122	44			
	中学部	29	13	27	10	15	7							71	30			
	高等部	25	12	23	15	26	11							74	38			
														計	267	112	82	

2 目指す学校像

- ◆ 安全・安心であたたかな笑顔あふれる学校
- ◆ 一人一人のよさや可能性を大切にす学校
- ◆ 主体性、協働性を育み、挑戦する心を育てる学校
- ◆ 家庭・地域社会と連携し、信頼される学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度は、全校児童生徒数（348名）に占める30日以上の欠席者は、45全体の12.9%（45名）で、令和4年度（12.8%）に比べ、わずかながら増加している。不登校の児童生徒への支援については、個々に対する背景や理由を把握しながら、児童生徒に合った支援策を講じている。併せて、本校サポートセンターを交え、外部の専門機関との連携協力体制の構築を目指している。 ・ 令和5年度のいじめ件数は5件であった（そのうち、重大事態は0件）。令和4年度が10件だったことから、件数は減少した。令和5年度は、これまで 	

	<p>児童生徒や保護者が継続して実施している「心のアンケート」に加え、「いじめ早期発見のためのチェックリスト」を実施し、いじめへの対策強化を図った。検討事例が挙げられた場合、速やかに児童生徒と担任や学年主任等との面談の実施や教職員間の情報共有など早期発見、早期対応に引き続き努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震や火災だけではなく、本校は水害時浸水想定地域に位置するため、複数の災害発生時の初動において速やかに施設の被害状況や児童生徒、職員の安全を把握し、避難できるように、毎月の避難訓練や防災教育の充実、情報伝達体制の更新をしている。 コンプライアンス遵守の共通理解と意識向上のため、管理職によるトップダウン型の研修や、各部が主体となって行うボトムアップ型研修を併用しながら職員研修の充実を図っている。また、管理職、教務主任、部主事、学年主任が密に連絡を取り合い、教員一人一人への対応に配慮しながら、学校全体でのワーク・エンゲージメントへの意識の向上に努めている。 令和5年度は月勤務時間45時間を超過した職員が1名いたが、令和6年度は0を目指す。管理職、教務主任、部主事、学年主任が連携し、教員間の仕事の均一化を図るとともに、教員一人一人が仕事に対する段取り力を高める意識をもつことができるように、行事の精選や仕事内容の整理等を行い、余裕をもって仕事に向かう環境づくりを行う。 令和6年度よりコミュニティースクール体制構築事業の実施校、地域連携体制構築事業の実施校の導入準備校となるため、よりよい地域との連携が図れるように準備を進めている。 	
<p>学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度より、授業改善を学校研究の柱として進めていくことから、学校研究を中心に進める係名を「研究推進係」から「授業改善推進係」に変更した。これまで3年間研究を進めてきた「児童生徒の学びの質を高める授業実践」を踏まえ、今年度は、各教科等を合わせた指導の授業改善研究を中心に行う。単元計画の作成や3観点における目標及び評価規準の設定について研修し、生活年齢・発達年齢を踏まえた系統性を考慮した年間指導計画の見直しを実施し、学校全体で授業改善に努めていく。 令和7年度からの統合型校務支援システムの本格運用に向けて、個別の指導計画の各教科、各教科等を合わせた指導等の3観点での目標設定及び学習評価や年間指導計画の単元整理を行い、カリキュラム・マネジメントにつなげていく。 	

4 中期的目標

- 1 児童生徒一人一人の自立と社会参加に向け、一貫性のある教育活動の推進及び指導の充実に努める。
- 2 自己研修および実践研修を重ね、創意工夫に満ちた教育活動を展開し、特別支援教育の専門性の一層の向上を図る。
- 3 児童生徒が安心して学べる環境と学校の安全管理に努める。
- 4 関係機関との相互理解を深め、児童生徒の地域での主体的な活動を積極的に支援する。
- 5 特別支援教育センターとしての支援体制を構築し、地域支援・連携強化を推進する。

5 本年度の重点目標

A 服務規律の確保（信頼される学校）

B 働き方の質の改革推進：ワーク・エンゲージメント〈活力・熱意・没頭〉、段取り力と教員のパフォーマンスの向上

重点項目	重点目標
1 健康で安全・安心な学校 ～平時の危機管理～	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒や保護者等との基本的信頼関係に基づく学級・学年経営 ② 日頃からの防災教育の充実・緊急時体制の確立と安全な通学指導 ③ いじめや不登校の早期発見・早期対応（人権意識の高揚） ④ 体力向上に向けた取組の工夫と養護教諭や栄養教諭、看護職員等と連携した健康安全教育の推進
2 授業力（構想と実践）・専門性の向上	<ol style="list-style-type: none"> ⑤ 妥当性のある目標設定に基づく「個別最適な学び・協働的な学び」の推進 ⑥ 3観点をふまえた各教科等（合わせた指導を含む）の授業改善と単元計画や評価計画の工夫 ⑦ 各教育計画の点検整備と系統性や各教科間の関連を図った年間指導計画の見直し・改善（配列表の検討） ⑧ 新しい学びのスタイルの充実（ねらい達成に向けたICT機器の有効活用等） ⑨ 根拠を明確にした自立活動の指導の充実（目標内容の妥当性、外部専門家との連携、流れ図の整備、各教科等との関連）
3 自立と社会参加にむけた教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ⑩ 発達段階に応じた基本的生活習慣の確立（挨拶、報告、生活リズム、時間管理等） ⑪ 系統性をふまえたキャリア教育の推進（キャリアパスポートの活用） ⑫ 自己理解を深め、主体的な進路選択を促す進路学習や職業教育の充実 ⑬ 学校内外におけるスポーツ・文化活動と主体的な児童生徒会活動の推進
4 地域に開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> ⑭ 地域の特別支援教育の充実に向けたセンター的機能の強化とアセスメントに基づく指導助言の充実（いなサークルの充実） ⑮ ねらいを明確化した効果的な交流及び共同学習の工夫（各部における全体計画） ⑯ 地域や企業等、地域資源を活用した学習活動の推進（見学、実習等） ⑰ 地域とともにある学校の在り方の検討（CS実施に向けた計画・準備） ⑱ HPやメールを活用した情報発信の充実とPTA、同窓会、各関係機関等と連携した活動の推進